

世界経済・金融市場動向(日本)

先月の振り返り

01 日本株式市場

6月の日経平均株価は上昇しました。上旬は、海外投資家の買い越しが続き堅調に推移しました。中旬は、日銀金融政策決定会合において大規模緩和が維持されたことから、安心感が広がり買い優勢の展開となり一時バブル後高値を更新しました。下旬には、海外投資家の買いが一服したことや四半期末の需給悪化懸念から上げ幅が縮小しました。

02 日本債券市場

6月の日本長期金利は低下（価格は上昇）しました。月前半は10年国債入札を無難に通過した一方で、カナダ中銀の利上げ再開等を背景に欧米金利は上昇し、一進一退の展開となりました。月後半は日銀の金融緩和政策維持の決定や軟調な欧米経済指標を受けて長期金利は一時4月以来の0.35%まで低下する場面もありました。

経済金融環境

01 日本経済環境

5月の国内企業物価指数は前年比+5.1%と依然として高水準であるものの輸入物価が前年比で鈍化していることから上昇幅は縮小しています。

1-3月期の実質GDP改定値は企業の在庫変動や設備投資が押し上げたことで前期比0.7%増となりました。一方で個人消費は下方修正されサービス消費の伸びが縮小しました。

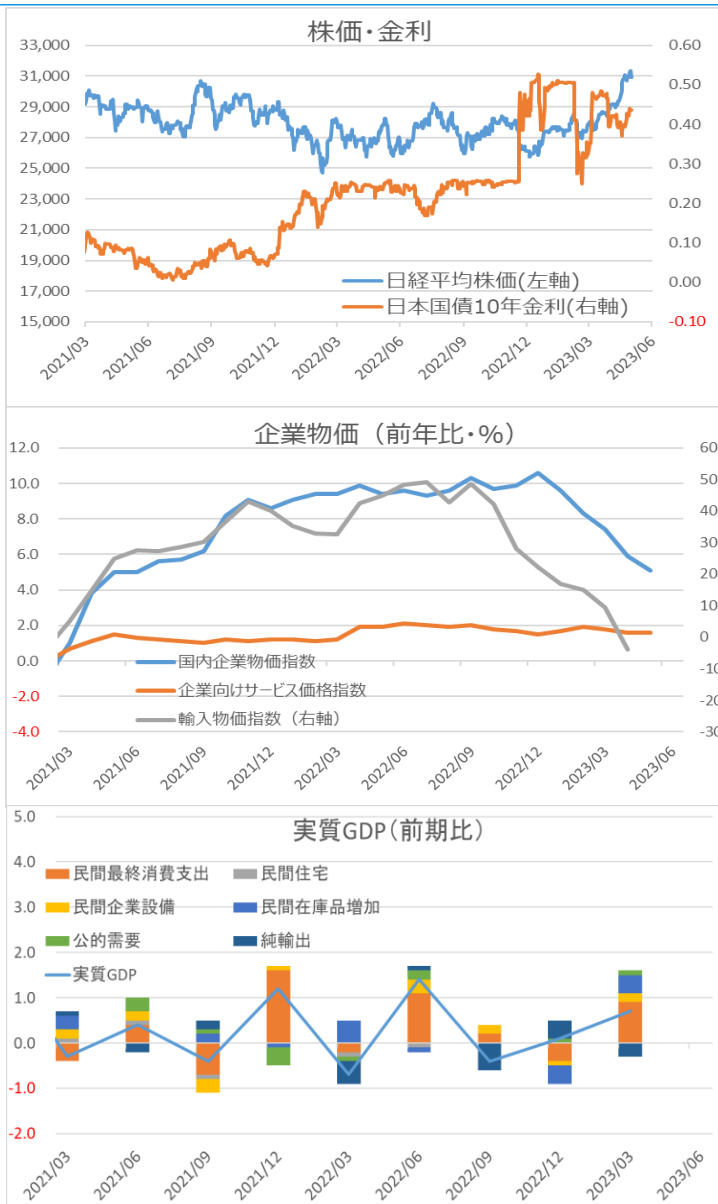
今後の見通し

01 日本株式市場

7月下旬に企業決算の本格化を控え、様子見ムードが強まることで上値の重い展開を想定します。また、金融政策の修正観測や海外の製造業景況感が弱含んでいることも上値を抑える要因になると考えます。

一方で、円安進行により、会社計画対比で利益が上振れることや、企業業績ガイダンスで年後半以降の受注改善が示された場合、下値を支える要因になると考えます。

■当資料は、情報提供を目的として、FDAlcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



(注) データ期間：2021/3/31～2023/6/30  
(出所) Bloombergのデータを基にFDAlco作成

02 日本債券市場

日銀6月会合における主な意見では一部メンバーからYCC（イールドカーブコントロール）政策の見直しについても言及されており、YCC政策の修正によって一時的に長期金利が上昇することも考えられます。

他方、ここもとの輸入物価、国内企業物価の鈍化傾向から日本における物価動向も落ち着きを見せ始めると想定します。そのため日銀は金融政策正常化については、慎重姿勢を継続する可能性が高く金利の上昇余地は限定的と考えます。



世界経済・金融市場動向(米国)

先月の振り返り

01 米国株式市場

6月のS&P500指数は上昇しました。上旬は債務上限停止法案の可決や堅調な雇用指標が好感され株価は上昇しました。中旬はFRBが利上げを停止したもののFRBメンバーの相次ぐタカ派スタンスからハイテク株中心に売られ上げ幅を縮小しました。その後、銀行ストレステストを無事に通過したことや底堅い経済指標が発表されるなかで物価指標の鈍化が確認され株価は上昇しました。

02 米国債券市場

6月の米国長期金利は上昇(価格は下落)しました。上旬は堅調な雇用指標やカナダ中銀のサプライズ利上げ等で金融引き締め長期化観測が高まり金利は上昇しました。中旬はFRBが利上げ停止を決めたものの2回の追加利上げを見込んでいることが分かり一進一退の展開となりました。下旬はイギリス、ドイツのCPIが上振れし欧州金利が上昇したことや堅調な経済指標から金利は上昇しました。

経済金融環境

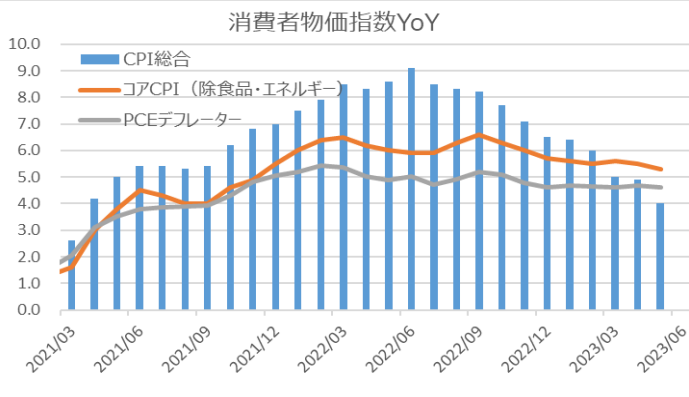
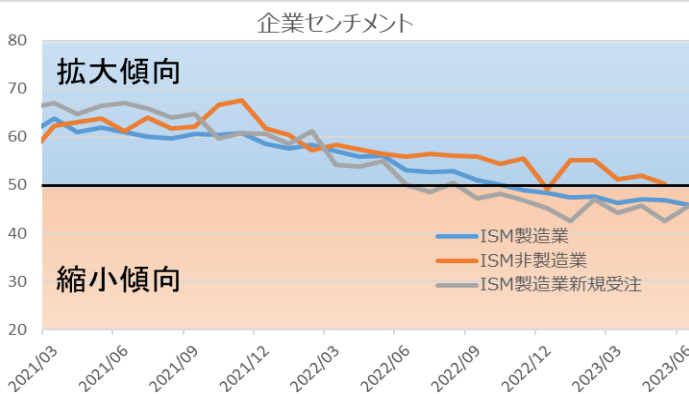
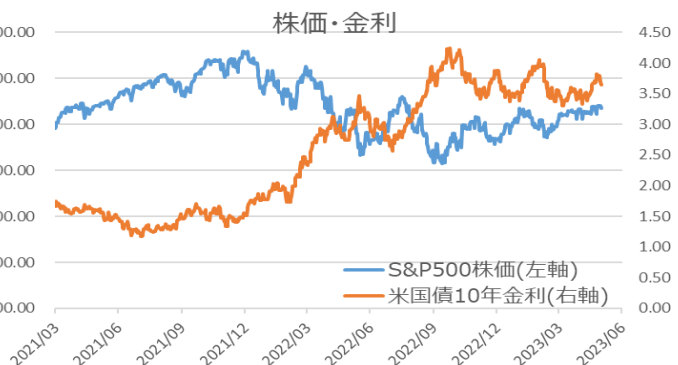
01 米国経済環境

5月のISM非製造業景況指数は50.3と活動停滞の水準まで低下し今年の最低水準となりました。5月の米国コアPCEは前年同月比+4.6%となり予想対比で下振れしインフレ懸念が和らぐ結果となりました。消費支出が実質ベースで横ばいとなり消費の勢いが和らいでいること示唆されました。

今後の見通し

01 米国株式市場

粘着性の高いインフレへの対応からFRBが金融引き締めスタンスを維持していることや、これまでの利上げによる累積的な影響が顕在化する恐れから、株価は上値の重い展開を見込みます。また、米中の半導体関連素材などを巡る経済対立がより一層激化した場合は、株価に下押し圧力が掛かると想定します。一方で、7月の企業決算で良好な利益成長が確認された場合や、期待感のある業績見通しなどが示されれば、株価は上昇すると見込みます。



(注) データ期間：2021/3/31～2023/6/30  
(出所) Bloombergのデータを基にFDAIco作成

02 米国債券市場

堅調な労働市場といった経済指標から米国経済のソフトランディング期待の高まりやコアインフレ指標の高止まり傾向、FRBによる追加利上げ観測を背景に利下げ期待の剥落とともに金利も高止まりすることが見込まれます。また、英国ではコアインフレの加速が確認されたことから中銀による更なる金融引き締めが織り込まれ始めており、急激な信用収縮等が発生することがなければ英国金利の上昇につられる形で米国金利も上昇する可能性があります。



■当資料は、情報提供を目的として、FDAIcoが作成したものです。特定の運用商品等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料にもとづいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信憑性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。